

第9回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 審議会名 | 第9回安曇野市行政改革推進委員会 |
| 2 | 日 時 | 平成22年2月22日(月) 14時00分から14時50分まで |
| 3 | 会 場 | 市堀金総合支所301会議室 |
| 4 | 出席者 | 白澤会長、浅川副会長、小口委員、尾台委員、唐澤委員、佐々木委員、武井委員、牛山委員、加々美委員 |
| 5 | 市側出席者 | 宮澤市長、西澤行政改革推進室長、等々力室長補佐、平林係長 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 1人 記者 1人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成22年3月1日 |

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- | | |
|------------|---------------------|
| (1) 開 会 | (浅川副会長) |
| (2) 会長あいさつ | (白澤会長) |
| (3) 答 申 | 第2次安曇野市行財政改革大綱案について |
| (4) 議 事 | 大綱策定等について |
| (5) 閉 会 | (浅川副会長) |

2 審議概要

(1) 答 申

第2次安曇野市行財政改革大綱案について、白澤会長から宮澤市長に答申を行なう。

会 長：昨年11月27日に、市長から安曇野市が行なうべき行財政改革大綱（第2次）についての諮問を受けた。本委員会で、5回にわたり慎重に審議してきた。厳しい財政状況が続くが、真に市民の期待に応えることのできる自立した自治体を目指し、全職員が一丸となり行財政改革に取り組んで欲しい。「第2次安曇野市行財政改革大綱案」については、原案のとおり答申する。なお、当委員会の付帯意見を提起するので、今後検討して欲しい。（答申書・付帯意見は最終頁に付記）

行財政改革は、簡単に進むものではないが、行政職員が高い意識を持って市民の安心安全のため尽くすことを強く切望する。

《第2次安曇野市行財政改革大綱案の基本理念・基本方針》

◇基本理念：市民の視点に立ち、行政経営の向上を目指す

◇基本方針：①市民とともに進める行政経営の実現

②簡素で効率的な行政経営の実現

③市民満足度の高い行政サービスの実現

（第2次安曇野市行財政改革大綱案は、パブリックコメント実施のため、市ホームページ等で公表中。）

市長：市の行財政改革のため、また市民福祉向上のため、長時間熱心にご審議いただき、心から感謝と敬意を申し上げます。本日の答申にもあったが、市の本庁舎建設問題は待ったなしの喫緊の課題である。市民の皆様の利便のためにも、様々な非効率を無くすには、本庁舎を造ることが不可欠となっている。

さて、全国的な経済状況の悪化のなか、当市でも法人税の落込み、失業者の増加、少子高齢化の進展など社会経済情勢が大きく変化している。我々の取り巻く広範な分野で大きな変化が起きている。このような状況下において、様々な課題に対応するには、柔軟な発想と大胆な政策形成能力とそれを具現化する実行力、職員の意識改革が重要だ。

本日の答申を基とし、効果的・効率的な行財政の運営体制を確立し、行革が最も必要とされている「市民の福祉向上のためのサービス提供」の実現と「安曇野市民が、今住んでいる地域を誇り、住み続けたいと感じる市政の確立、活力あるまちづくり」を目指して全国に誇れる地域をつくっていききたい。合併の効果を高めるため、もっと行政改革を進め、職員数も縮減していききたい。職員の意識改革について、「現場こそが政治の原点だ。上から目線でなく、市民と同じ視点で市民から学んできて欲しい。市民の声を真摯に受け止めてきて欲しい。各地域に飛び出て、地域の声を聞き、親切的な行政運営に努めて欲しい。」と職員に指導している。

市政に対して、職員に対して、お気づきがあれば、手厳しく指導、指摘ください。ともに安曇野市の基礎づくりをお願いしたい。

会長：市職員は、企業感覚で取り組んで欲しい。市民にはその成果品をいただきたい。そんな思いを持ち、委員会で審議してきたことを補足する。

(2) 議 事

副会長：委員12名のうち、本日は9名が出席。市行政改革推進委員設置条例第5条第2項の規定に従い会議は成立している。同じく、第5条第1項の規定に従い白澤会長が議長となり議事進行を行なっていた。

事務局：大変ご多忙の中、大綱案をまとめていただき感謝する。本日問題なく答申いただいた。市長もこの答申を基に行財政改革に取り組みたい旨申し上げた。委員から補足その他の意見あればお聞きしたい。

意見・質問なし

事務局：今後のスケジュールを説明する。早速本日の夕方より、市として大綱を位置付けるため内容点検、検討に入る。パブリックコメントも実施したうえで、本大綱を策定したい。

(3) その他

事務局から新年度の市の組織体制について説明する。

意見・質問なし

(4) 閉 会

副会長のあいさつで閉会となる。

平成22年2月22日

安曇野市長 宮 澤 宗 弘 様

安曇野市行政改革推進委員会
会長 白 澤 亀 内

第2次行財政改革大綱について（答申）

平成21年11月27日に、市長から新しい「行財政改革大綱の策定」についての諮問を受け、安曇野市が行なうべき行財政改革について審議を行なってもらいました。

安曇野市は全国的にも稀な対等した自治体同士の合併として、平成17年の歴史的な大合併を経て、着実に新しいまちづくりに取り組んでいます。しかし、厳しい財政状況が続くなか、少子高齢化や環境問題など直面する諸問題にも積極的に取り組まなければなりません。

このため、簡素で効率的な行政運営の確立や行政サービスの向上を図り、真に市民の期待に応えることのできる自立した自治体を目指し、全職員が一丸となり行財政改革に取り組むことが肝要です。

諮問された「第2次安曇野市行財政改革大綱の策定」については、基本的に了承し、原案のとおり答申します。

なお、別記のとおり当委員会の付帯意見として提起しますので、今後当局において十分検討されることを要望します。

また、大綱に基づいた実施計画については、環境変化に適切に対応するために不断の見直しが必要であることから、進行管理をするなかで、実施内容や目標、新しい課題への対応も含めて、引き続き協議しながら積極的に取り組んでください。

意 見・要 望

1 市民と行政の協働体制の推進について

市民と行政との協働が前面に打ち出されているが、協働とは何かを市民に理解してもらい必要がある。そのための行政情報の積極的な提示・開示など行政の責務を明確にして推進されたい。

2 行財政システムの構築と積極的な行政改革の実行

真に必要な行政改革とは何かを常に考え、根幹的な行政の見直しという立場で旧式な観念の壁を打ち破り、行政の担うべき役割を見直し、重点化することにより、新しい行財政システムを構築されたい。

市民の福祉向上と地域社会の発展に最適な行政サービス提供を最終目標とし、そのための改善と改革を繰り返しながら、より一層の行政改革を推進されたい。

3 本庁組織の集約による行革推進

地域の課題にスムーズに対応するためには、行革推進の立場から、現在の分庁方式は非常に非効率である。本庁については、全ての地域への効率的な行政サービスの提供体制の確立を図るため、統括部門として、簡素で効率的な行政組織の構築を実現すること。

当然、支所機能の見直しを含め全ての部署で積極的な組織の最適化を図ること。

また、市民と行政との最も身近な接点である行政窓口サービスについては、効率化を高めることはもちろん必要であるが、組織機構の見直しにも併せて、市民本位・市民仕様の窓口業務体制が構築されることを望む。

4 市民の視点

行政改革の実行性を高めて、市民の満足度を向上させるため、また、大綱の理念に謳う「市民の視点」という観点から、職員が外へ出て市民の生の声を聞くよう努力されたい。

市職員が対象である「安曇野市地区担当職員制度」の積極的な活用も期待する。

5 事務事業の見直し

事務事業の不断の見直しとして、費用対効果の乏しいものや所期の目的を達成したものの、実情に合わなくなったものについては、廃止、縮小、統合を進めること。

6 スピード感ある改革

改革には、タイミングが重要である。時期を逸すると効果が薄くなることを念頭に置き、可能なものは速やかに改革推進を図るものとする。

7 P D C Aサイクルの活用

行政改革の推進にあたっては、目標値を設定したうえで実行するとともに、常にP D C Aサイクルを積極的に活用すること。

8 職員の意識改革の推進

市職員一人ひとりが意識改革を進め、自ら成長するとともに、その能力と可能性を最大限引き出したうえで、その職員を束ねた組織力の向上が重要である。

新たな行政システムの実現に向けて、10万都市を担う市職員として、一人ひとりが主体的に研鑽を積み、自らを磨き向上させ、市民の信頼と負託に応じていくこと。

また、従前からの慣例を打ち破る新たな発想と勇気、強い意思を持って改革に取り組んでいくことが重要である。職員一人ひとりが経営感覚とコスト意識を持ちながら、市民の満足度を高めるため全庁的に行財政改革に取り組まれることを大いに期待する。

終わりに

大綱を実効性のあるものとするためには、確固たる推進体制を整え、積極的に改革に取り組む必要があります。職員一人ひとりが改革の必要性和、改革におけるそれぞれの役割を十分に認識し、市民本位の行政経営に繋がる行政改革の実現に向かっていただきたい。

この答申を市民の声として受け止め、市の行財政経営のなかでの確に反映させ、変革の時代にも対処し得る行財政システムづくりの一助としてください。

安曇野市行政改革推進委員会名簿

会	長	白	澤	亀	内
副	員	浅	川	文	彬
委	員	小	口	憲	政
委	員	尾	台	ゆ	み
委	員	唐	沢	武	志
委	員	佐	木	一	夫
委	員	武	井	辰	雄
委	員	花	村	薫	子
委	員	林	倉	茂	則
委	員	平	山	重	久
委	員	牛	美	宣	男
委	員	加		孝	

以上12名